

米づくり情報 第5号

令和5年7月31日

平坦部(佐賀県農業試験研究センター)

本年産水稻の生育状況(7月31日)

移植日	項目 品種	年次	草丈	茎数	葉齢	葉色	概況 (平年と比較して)
			cm	本/m ²	L	SPAD	
6月19日	夢しずく	本年	74.3	438	12.1	41.7	[気象] 7月24日～30日まで ◆平均気温…平年より1.3°C高い ◆日照時間…長い(平年比137%) ◆降水量…少ない(平年比36%) [生育] ◆草丈 「夢しずく」「さがびより」で平年並み、「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」で低い。 ◆茎数 「夢しずく」「ヒヨクモチ」でやや多い。「ヒノヒカリ」「さがびより」で少ない。 ◆葉齢 「ヒノヒカリ」でやや遅れており、他の品種でやや進んでいる。 ◆葉色(SPAD値) 「夢しずく」で高く、「ヒノヒカリ」でやや高く、「さがびより」で低く、「ヒヨクモチ」ではやや低い。
		平年	74.0	416	11.6	38.5	
		平年比(差)	100	105	+0.5	+3.2	
	ヒノヒカリ	本年	60.4	507	11.3	41.6	
		平年	67.8	543	11.7	39.5	
		平年比(差)	89	93	-0.4	+2.1	
6月20日	さがびより	本年	58.7	463	11.6	36.5	
		平年	59.4	521	11.2	40.9	
		平年比(差)	99	89	+0.4	-4.4	
	ヒヨクモチ	本年	56.0	837	12.7	39.7	
		平年	59.4	811	12.2	40.4	
		平年比(差)	94	103	+0.5	-0.7	
留意点	○ 「夢しずく」は幼穂形成期を迎えており、穂肥診断に基づき追肥を適正に施用する。 ○ 中干しが終わった圃場については、今後は間断灌水を行う。 ○ 病気や害虫の発生に注意する。農業技術防除センターの情報を参考にするとともに、圃場調査を実施して的確な防除を行う。						

注1)「夢しずく」、「ヒノヒカリ」は、6月19日移植の稚苗(播種期5/25、播種量 湿粃 180g/箱)

「さがびより」、「ヒヨクモチ」は、6月20日移植の稚苗(播種期5/26 播種量 湿粃 180g/箱)

2)栽植密度: 「夢しずく」は、条間30cm×株間17cm, 19.6株/m²(65株/坪)

「さがびより」は、条間30cm×株間20cm, 16.7株/m²(55株/坪)

「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」は、条間30cm×株間15cm, 22.2株/m²(73株/坪)

3)栽培管理: 施肥法は県基準に準じ、防除他はセンターの慣行による。

4)概況欄の【草丈】、【茎数】の平年値との比較については、以下のように定義している。

低い(少ない): 94以下、やや低い(やや少ない): 95~98、平年並み: 99~101、

やや高い(やや多い): 102~105、高い(多い): 106以上。

5)平年値は、収量について過去の全試験年次の標準偏差(σ)を算出し、±1σの外側にある年次を除く年次の過去データから算出した7月31日の数値を記載。

【窒素の時期別施用量(N kg/10a)】

品種	基肥	中追	穂肥 I	穂肥 II	実肥
夢しずく	3.0	0.0	2.0(7/31)	—	—
ヒノヒカリ	4.0	2.0(7/11)	3.0	—	—
さがびより	5.0	0.0	2.0	—	—
ヒヨクモチ	4.0	3.0(7/13)	4.0	1.5	1.5

※括弧内の日付は農試作況圃場における施用日

【農試作況圃場における幼穂形成始期と出穂期】

品 種	幼穂形成期(1mm)		出穂期	
	本年(平年差)	平年	本年(平年差)	平年
夢しずく	7/28(±0)	7/28	未	8/17
ヒノヒカリ	未	8/5	未	8/27
さがびより	未	8/9	未	9/1
ヒヨクモチ	未	8/14	未	9/6



図1 トビロウカ各世代の発生予測 (第2版、2023年7月25日作成)

1. 6月30日～7月3日頃(図では7月1日)、7月7日～9日(図では7月8日)の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(7月25日以降は平年値)を基に作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認し、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、**本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認**する。

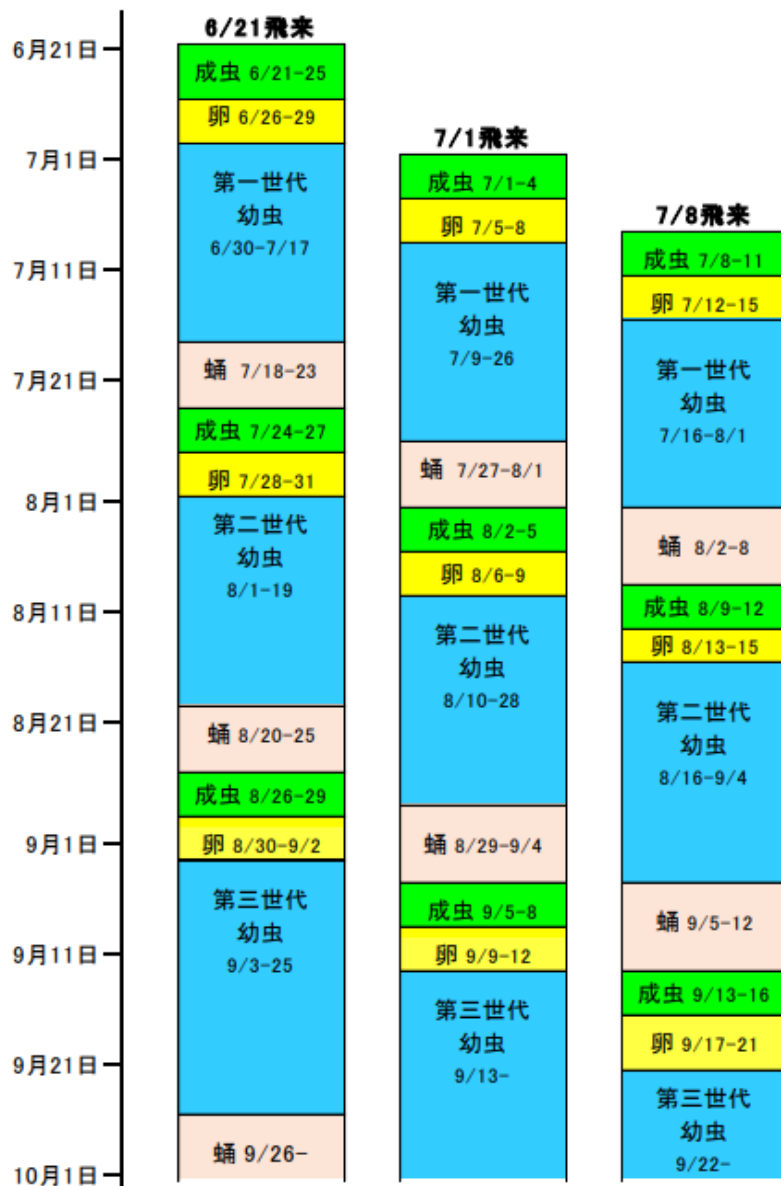


図2 コブノメイガ各世代の発生予測(第1版、2023年7月25日作成)

1. 6月21日頃、6月30日～7月3日頃(図では7月1日)、7月7日～9日(図では7月8日)の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(7月25日以降は平年値)を基に作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、**本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。**

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

令和5年産 稲作期間気象図

アメダス観測値(佐賀)

農業試験研究センター
作物栽培研究担当

